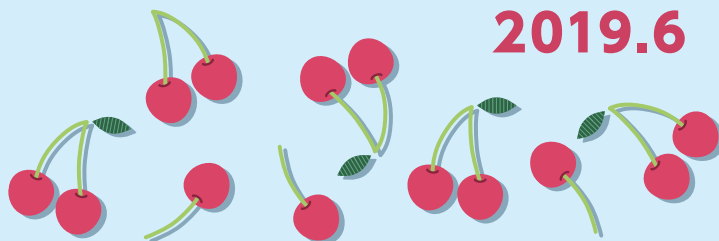


- ▶ 知っ得情報：いまさらですが、日本語組版
- ▶ 日本語に興味津々：日本語の起源!?
- ▶ フォント あ・ら・かると：「タカリズム」
- ▶ もりもじかわら版：Creative Cloudの提供ポリシー変更について
- ▶ イベント情報

今月の
フォント

- 本文：フォーク (R)
- 見出し：那欽



2019.6

www.morisawa.co.jp/about/morisawa-news

知っ得情報 いまさらですが、日本語組版

スマートフォンやSNSの普及により、伝えたいことを文字で表現する機会が増えています。プリントや印刷をして人に届けるものでさえ、Wordなどを使うことで簡単に出来上がります。果たして、私たちが日々作成する文書は読み手にとって読みやすいものになっているのでしょうか？

「読みやすさ」とは？

出版・印刷業界では「日本語組版は特殊で難しい」とよく耳にしますが、文章の読みやすさを決める基準はどこにあるのでしょうか。

- ① **視覚(デザイン)要素**：体裁表現が、視覚的に情報として正確にかつ即座に認識されるか
- ② **表現手法**：1段落の長短や句読点の扱い、見出しなどの文書構造が適切か
- ③ **記載内容**：読者にとって、わかりやすい表現(文言)、適切な文面になっているか

ここでは、文芸書や専門書などの文章系書籍を取り上げ、文字サイズや字間・行間と字詰めを中心に考えてみましょう。

文章を読む

文章を読む際、人の目は文字を1字ずつ追いかけて読むのではなく、1回にいくつかの文字をまとめて見て、次の点に視点が飛んで、またいくつかの文字を見ている。つまり停留と飛躍を繰り返すことにより文章を読み理解しているのです。その停留ポイントの目安となるのが句読点であり、長文では漢字に目が留まります。

ちなみに、書籍の本文では主に明朝系の書体が利用されますが、その理由の一つとして、明朝体は仮名と漢字のデザインが根本的に異なることで停留のポイントを見つけやすく、長文を読んでも疲れにくいといわれています。逆にゴシック体は仮名と漢字が統一されたデザインの場合が多く、本文での利用としては文面の強弱が識別しづらいといえます。

デザインの変遷

出版物(紙媒体)は、読者の年齢・伝える内容によって文字サイズや書体も工夫が必要です。判型によっては1ページに納まる文字数を踏まえた版面設計が必要となります。

組版は、時代とともに移り変わって来ましたが、それは活字から写植、そしてDTPへと制作環境

が変化したことに加え、読者側の環境変化によって、次のような変遷を辿ってきました。

【明治前期(明治20年前後)まで】

- ・活版印刷もあつたが多は木版
- ・木版の文字は、漢字と比べ仮名はやや小ぶり
- ・文字サイズは、2号、3号、4号が中心

【明治後期(明治20年以降)】

- ・鉛活字の明朝体が普及
- ・文字サイズは、5号が中心
- ・字間は四分アキまたは二分アキ
- ・1行の字数(字詰め)は、30字から38字程度

【大正時代】

- ・9ポのバタ組みが始まる

【昭和前期(昭和20年まで)】

- ・行間は全角が多く、字間はバタ組みが増加
- ・昭和10年以降、文学書は本文9ポの四六判、専門書は9ポの菊判が定着

【昭和20年以降】

- ・文字は9ポ、行間は7~8ポのものが始まる
- ・菊判1段組みの字詰めは48~52字、行間9ポで17行、8ポで18行、7ポで19行程度
- ・文学全集などは、菊判で9ポまたは8ポ、2段組みまたは3段組み、行間は二分

組版の基本(行長と行間)を考える

欧文組みでは行間をバタ(行間:0)とする例もありますが、和文では表組みなど特別な部分を除き必ず行間を空けます。つまり字間はバタ組みが基本で、行間は空きを設定します。その行間の空き量は行長とも関係し、行長が長い場合にはある程度の行間を確保する必要があります。1段組みでの行長の参考例は以下の通り。

- ・四六判の縦組みで9ポ前後：40字~44字
 - ・菊判の縦組みで9ポ前後：49字~52字
 - ・菊判の横組みで9ポ前後：35字程度
- ちなみに、縦組みで50字、横組みで40字を超える場合は、段組みを考えた方が良いでしょう。

一方、行間の目安は次の通り。

【本文】

- ・行長が長い場合：文字サイズの全角程度
- ・行長が短い場合(字詰め20字程度)：文字サイズの二分までは可能、余裕があれば文字サイズの2/3くらいまで空ける

【見出し】

- ・見出し文字サイズの三分か四分程度

【表組み】

- ・表に使用する文字サイズの二分
- ※項目欄などは、行間を0まで詰めても良い

【図説(キャプション)】

- ・図説の文字サイズの四分から二分程度

読みやすい書籍

単行本のような書籍であれば、本文は9ポで1ページを16行として行間8ポ、または17行で行間7ポ程度が良いのではないのでしょうか。

今回は、組版の変遷に少し触れてみましたが、示した例は参考であり、実際には出版社や筆者のルール、要望もありますので、必ず守らなければならない規則とはいえません。わずかに100年前には、縦組みで字間を空けた書物が当たり前に読みやすくとされてきました。時代が移り変わっても、その時代に適した読みやすい書籍・文章を制作することは重要なテーマです。とくに日本語には縦組みもあり、また句読点などの配置もあるので、DTP作業だけでなく、作文や執筆をする時、さらには読書に際しても読みやすい組版、疲れにくいエディトリアルデザインを意識していただければと願っております。

●掲載サイズの目安

- 2号 ≒ 21ポ、3号 ≒ 16ポ、4号 ≒ 13.75ポ、5号 ≒ 10.5ポ
- 菊判 ≒ A5判、四六判 ≒ B6判
- ※ポ：ポイントを表す

本紙169号と170号では、「日本語と韓国語」をテーマとしたコラムを掲載させていただきました。そこに書かれた内容は、歴史を辿り、ロマンを感じさせるものでしたが、その一方で賛否両論の分かれる諸説の一つでもありました。そこで今回は、もう少し「日本語の起源」について探ってみることにしました。

日本語の起源という謎は、100年以上にわたるさまざまな説が現れては消えているのが現状で、それゆえに果てしなくロマンをかき立てるテーマともいえるのではないのでしょうか。

言語の系譜

「祖語」(共通の歴史言語学的祖先を持つ諸言語の祖先となる言語)から枝分かれした形で示される系譜図に基づく比較言語学の方法によって、これまでにわかっているのは、ユーラシアではインド・ヨーロッパ語族、アフロ・アジア語族、

ウラル語族、アルタイ語族、ドラヴィダ語族、シナ・チベット語族などがあり、アフリカではニジェール・コンゴ語族、太平洋地域ではオーストロネシア語族などが挙げられます。これらは言語学的にはっきり縁戚関係が示されていますが、日本語はこれらのどの語族にも属していません。

「祖語」が生まれた時代は、新興の言語が急速に勢力を広げ、いくつもの古い言語を駆逐したと考えられています。そして東北アジアの沿岸部から南太平洋、そして環太平洋、北西アメリカのいわば辺境に系統関係が定かでない言語がいくつか残っているのは、新勢力によって押しやられた結果ではないかと説かれています。おそらくこの押しやられた側として、日本語、朝鮮語、アイヌ語、その他古シベリア語、さらに環太平洋、北アメリカ北西海岸、ニューギニアなどに系統不明の言語が分散しているのでしょう。よって日本語の起源は、太平洋とそれを取り巻く島々が現状の地形となった地質学上の現代に相当する「沖積世」(約1万年前から現在まで)というよりも、むしろ日本列島やアメリカ大陸がまだユーラシア大陸と地続きだったとされるウルム氷期(約

7万から1万年前)にまで遡って考えるべきなのかもしれません。

系統関係を探るさまざまな理論仮説

● 朝鮮語との系統関係

朝鮮語と日本語の関係についての議論は、日本では江戸時代に遡る古い歴史があり、ここでは文法構造における類似性が高く、基礎語彙についても一部単語の類似性が指摘されているものの、偶然の一致や古い時代における借用の可能性もある。音韻の面では、固有語において語頭に流音(r音)が立たないこと、一種の母音調和があることなど、アルタイ諸語と共通点がある一方で、閉音節であること、子音連結の存在、有声・無声の区別が無いなどの相違点もある。

● 高句麗語(扶余諸語)との系統関係

朝鮮の歴史書「三国史記」に記された高句麗の故地名の音訓併用表記から推測される高句麗語とは、数詞など似る語彙があり、その地名の中には、属格「~の」や形容詞連体形「~し」のように日本語と機能が類似し、同一起源とみなせる文法的形態素が多く含まれると説いてい



▲世界の主な語族

る。ただし高句麗語の実態はほとんどわかっておらず、また高句麗語は扶余諸語（中国東北部にあった国家「扶余」で話された言語）の一つであることから、扶余諸語との関係との見方もある。

●アルタイ語族との系統関係

アルタイ語族仮説では、日本語と朝鮮語は共にアルタイ語族の系統としている。文法構造での高い類似性、音韻面での部分的類似性がある一方で、基礎語彙については同系統と判定するだけの類似性は見出されていない。

●オーストロネシア語族との関係

オーストロネシア系言語（台湾から東南アジア沿海部、オセアニア、マダガスカル地域に広がる言語）は、文法・形態は日本語と異なるが、音韻については発音体系が比較的単純で閉音節であるなど日本語と似ており、基礎語彙についても一部類似性が指摘されている。ただ、近年の研究ではオーストロネシア系言語は古くは閉音節であり、語彙の類似性についても偶然の一致の範囲を越えるとは言い難いとされている。

●ドラヴィダ語族との関係

インドのドラヴィダ語族、とりわけその一つであるタミル語との関連を提唱する説。ドラヴィダ語族との対応関係については文法構造が膠着語（一つの単語に接頭辞や接尾辞のような形態素を接合させることによって文法的な関係を示す構

造をもつ言語）であることが挙げられ、またインド南方やスリランカで用いられているタミル語とは語彙・文法などの点で共通点をもつと提起されたが、共通項は稲作関連語彙がほとんどであり、中国南部・東南アジアからインド、日本方面双方への稲作拡大に伴う住民移動と言語伝播が両言語の類似点を生み出したとの指摘も多い。

●アイヌ語との系統関係

アイヌ語は語順（SOV語順=主語・目的語・動詞の語順）において日本語と似るものの、文法・形態は類型論的に異なる抱合語に属し、音韻構造も有声・無声の区別はなく閉音節が多いなどの相違がある。一般に似ているとされる語の中には、日本語からアイヌ語への借用語が多く含まれるとみられ、系統的関連性を示す材料は乏しい。ただ、古事記や風土記のような口伝による伝承がアイヌ語で解釈可能であることから、縄文時代の日本語がアイヌ語と同系統の言語であるとする意見もある。

●中国語（古典中国語）との関係

日本は中国を中心とした漢字文化圏に属しており、中国語（古典中国語）は、古来、漢字・漢語を通じて日本語の表記や、語彙・形態素に強い影響を与え、拗音等の音韻面での影響や書面語における古典中国語の文法・語法の模倣を通じた文法・語法・文体の影響も見られたが、言

語学的には系統的関連性は認められていない。

●アルタイ・南島語混合説

アクセント史の研究をもとに、日本語がオーストロネシア諸語とアルタイ系言語との混合言語であるという説も生まれた。そこでは、日本語のピッチアクセントをアルタイ系言語における位置固定のストレスアクセントと根本的に異なるものと捉え、その起源をフィリピン諸語に求めた。日本語の「真っ黒」(makkuro=ma+ku+kuro)は、接頭辞(ma)を伴う形容詞(kuro)の不完全重複形で、同一の形式がフィリピンやメラネシア諸語にも存在することから、日本語は起源的に「オーストロネシア要素と大陸的なアルタイ諸言語との混合物」であると説いている。

現在は、南島語を基層とし、アルタイ系言語が上層として重なって日本語が形成されたとする見解が主流となっている。

.....

日本語のルーツは、いまなお謎に包まれたままのようです。現在、私たちが交わっているこの日本語さえも何千年先、何万年先にはどのように変化しているのか、未来人と言葉が通じるのか、それもまた興味深いところです。最近では自動翻訳が普及し始めていますが、まずは日本語や日本人の祖先が何処にあるのか、歴史ロマンを探索するのも楽しいのではないのでしょうか。

永 フォント あら・かると タカリズム

▶ 今月号のあ・ら・かるとでは、「タカリズム」を取り上げます。

「タカリズム」は、文字のエレメントに丸や三角を取り入れることで躍動感を生み出したデザイン書体です。線幅や画線の角度を文字ごとに自由にデザインしながら、正方形を意識した安定感のある骨格を備えているため、リズムカル

で愉快的動きのなかにも安定感のある文字組みが実現できます。

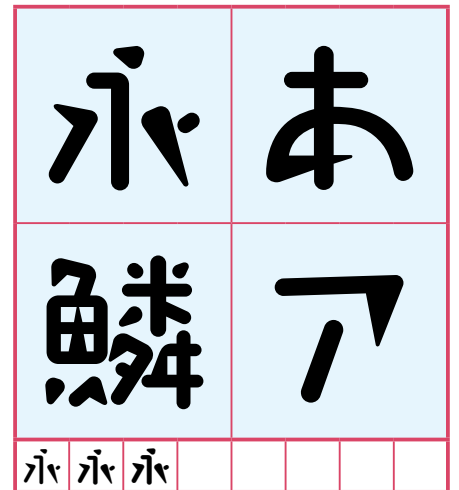
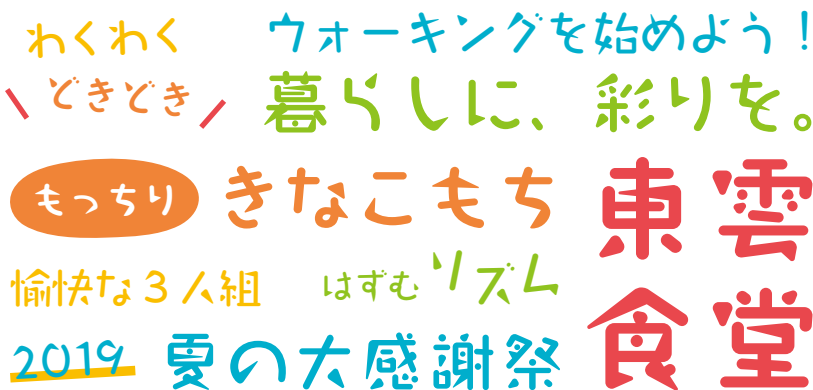
楽しげで愛嬌のある表情豊かな書体で、広告のキャッチやディスプレイ、見出し、パッケージなど、楽しさを演出したいシチュエーションで幅広く活躍します。ロゴタイトルなどで一つひとつの文字を際立たせて使用するのもおすすめの書体です。

ウエイトはR、M、DBの3つを揃え、文字サイズや目的に応じてピッタリのウエイトを選んでい

ただけます。これから気温が上がるにつれて楽しいイベントごとが増えていく季節、楽しげな雰囲気の演出にぜひご活用ください。

「タカリズム」は、「MORISAWA PASSPORT」をご契約のお客様はいつでもインストールしてご利用いただけます。『MORISAWA Font SelectPack 1 / 3 / 5』でもご利用いただけます。

●使用例



ゴールデンウィークが明けた直後の、日本時間の5月9日になりますが、Adobe Creative Cloudにおいて、提供ポリシーの変更が行われました。この件は各種IT系ニュースサイトでも大きく取り上げられたことや、お使いの人にはメールなどでアナウンスされたため、長期休暇の余韻も吹っ飛ぶくらいに驚かれた人もいないのではないでしょうか。

ご存じのない方もいらっしゃると思いますので、今回改めて、その情報について記載をさせていただきます。

Adobe Creative Cloudにおいて、提供方式としてのポリシーが変更されました。それと同時に「非認定バージョン」として旧バージョンの利用終了を促すようになっていきます。具体的には下記の2点になります。

- ・デスクトップアプリケーションでは、最新とその一つ前のバージョンのみ導入可能になります
- ・非認定バージョンは今後の利用を認められないので利用終了を勧告されています

これらを見たときに「これからは古いバージョンを一切利用できなくなるのか」と疑問に思われる方もいらっしゃるはずですが、しかし実際にはそうではなく、グループ版やVIP版を導入されている場合は、ライセンス管理を行う「Admin Console」やインストーラー作成用の「Creative Cloud Packager」を利用することで、認定バージョンの導入を行うことが可能となっています。

実は「Creative Cloud Packager」は以前より提供が行われていました。しかしデスクトップアプリケーションがあれば管理は十分であったために、今までは利用する必要があまりなく、一部の方にしか存在は知られていませんでした。これを用いれば、提供されるバージョンのインストーラーをつくるのが可能です。あわせてですが、複数アプリケーションを一度に導入できるインストーラーの作成もできること、各PCごとでインターネットからダウンロードをせず、導入するバージョンを複数台で管理することにも役立ちます。グループ版やVIP版ならではのメリットを生かすチャンスですから、この機会に利用してみたいはいかがでしょうか。



1 英語でアナウンスされた、提供ポリシーの変更に関する文書を確認すると、デスクトップアプリケーションでは「二つの最新メジャーバージョンのみが導入できるようにする」との記述があることがわかる。すぐに影響しない場合もあるとはいえ、利用しているPCを変更する可能性がある場合、再導入の際の注意が必要になり、確実に知るべき情報といえるだろう
<https://theblog.adobe.com/changes-to-creative-cloud-download-availability/>



バージョン	Photoshop	Illustrator	InDesign
CS6	13	16	8
CC (2013)	CC14	CC17	CC9
CC 2014	CC15	CC18	CC10
CC 2015	CC16	CC19	CC11
CC 2015.x	CC17	CC20	
CC 2017	CC18.1.7 CC18.1.6	CC21	CC12
CC 2018	CC19	CC22	CC13
2019	CC20	CC23	CC14

2 認定バージョン・非認定バージョンはWebページに記載される。バージョン表記が一般表記と異なるため、別表で確認しよう。なおIllustratorはリストになく、非認定とはなっていない
<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/kb/remove-unauthorized-versions.html>



3 Creative Cloud Packagerを使えば認定されたバージョンのインストーラーがウィザード形式で作成できる
<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/package/help/creating-packages.html>

イベント情報

教育ITソリューションEXPO

教育分野における日本最大の専門展で、デジタル教材、e-ラーニング、ICT機器、業務支援システム、各種学校向けサービスなどが一堂に展示されます。 ※9月には大阪でも開催が予定されています。

会 期：6月19日(水)～21日(金) 10:00-18:00(最終日のみ17:00終了) 会 場：東京ビッグサイト 青海展示棟

編集後記

暑い夏を前にして梅雨空が続くこの季節、連日の雨は通勤・通学にとっては鬱陶しいものですが、作物の成長や夏の水不足を考えれば重要な雨です。自然と共存する人々の暮らしは、自然を受け入れるところから始まっています。時代の中で急激に変化するものもありますが、数百年、数千年、数万年かけて、わずかな変化を続けているものもあります。日本語、言葉や組版について、長い年月を背景に考えてみるのも、たまには良いのではないのでしょうか。

✉ E-mail: m-news@morisawa.co.jp

発行:株式会社モリサワ 企画・編集:ユーザーサポート部

※記載されている会社名・商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

モリサワ www.morisawa.co.jp

株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東 2-6-25 Tel:06-6649-2151
 東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-27 Tel:03-3267-1231
 仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺 1-3-8 Tel:022-296-0421
 名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1-5-10 Tel:052-201-2341
 札幌営業所 〒001-0010 札幌市北区北十条西 2-6 サウスシティ2F Tel:011-700-0112
 福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 1-3-25 Tel:092-411-5875
 鹿児島営業所 〒890-0051 鹿児島市高麗町 11-3 下田平ビル2F Tel:099-252-2255